



犬と共存できる社会を目指して 犬の飼い方とマナー

問 環境課ごみ減量係 ☎(95)9899

他人に迷惑を かけていませんか

「ふんの始末をしない」「鳴き声がうるさくて眠れない」「放し飼いで困っている」などの苦情や相談が寄せられることも少なくありません。犬を飼うには、愛情と責任をもった飼い方が必要です。そのためには犬の習性を知り、決められたことは守り、他人や近隣に迷惑をかけないようにしましょう。

ふん・尿の後始末をしましょう

散歩のときはふんの持ち帰りに使うビニール袋と尿を流すための水を入れたペットボトルなどの用意が必要です。散歩中にふんをさせたときは必ず家に持ち帰って処理しましょう。**犬のふんは燃えるごみには入れず、トイレに流しましょう。**

また、尿をさせる場所は他人の建物のドアや塀などを避けるようにしましょう。ふんや尿をできるだけ自宅で済ませるようにしつづけると、雨の日など散歩ができない日でもトイレをさせることができます。

飼い犬が逃げたときは

飼い犬が逃げたときは、速やかに以下の3か所に届けましょう。

- ・市役所環境課ごみ減量係 ☎(95)9899
- ・碧南警察署 ☎(46)0110
- ・県動物愛護センター ☎0565(58)2323

また、首輪などに鑑札をつけておくと、逃げたときに早く探すことができます。



ワン! ポイント

なかなか無駄吠えをやめない場合は**県動物愛護センター** (☎0565(58)2323) で開催している飼犬しつけ方教室への参加や、家庭犬しつけインストラクターの相談窓口などを利用してください。



スマートフォン向けごみ分別アプリ「さんあ〜る」

ごみを出す日の事前通知機能などがあります。是非利用してください。利用料は無料ですが、通信料は自己負担です。



碧南の歴史へのいざない

問 文化財課内
市史資料調査室
☎(41)4566

No.82 岡本八右衛門(3)

岡本八右衛門と同族とされる人物に新川鶴ヶ崎生まれの岡本兵松がいます。兵松は伊与田与八郎(豊田市)と力を合わせ、明治14年(1881)明治用水を完成させています。この用水は、文化・文政期(1804~1829)に和泉村(安城市)の豪農、都築弥厚が「碧海台地が原野のままである理由は用水がないため」と計画したものでした。弥厚は台地に矢作川の水を引くための測量までは終えていましたが、実現には至りませんでした。

岡本八右衛門は、明治用水の完成を期待し、碧海台地の原野に広大な土地を所有していました。の事業のひとつに原野開墾による広大な農場づくりが計画されていたのです。八右衛門が、この新事業のために番頭待遇で招いたのが大浜村役場で働いていた新川の加藤平五郎でした。

明治20年(1887)、は和泉村に事務所を構え開墾

を始めました。この農場は第一岡本農場と名付けられ、27歳になる加藤平五郎が支配人を務めました。開墾の監督(鍬頭)は、19歳になる新川松江の板倉源太郎が任されました。平五郎と源太郎は、多数の労働者と共に朝は早くから晩は遅くまで働き続け、明治25年(1892)、34町歩(10万2千坪)の開墾を終えました。開墾という荒仕事の賃金は、弁当持ちで男は1日15銭、女は10銭ほどであったと伝えられています。うどん1杯が1銭のころでした。



△西尾市米津町から安城市和泉町方面を撮影
(広大な第一岡本農場があったと推測)